

こんにちは、

日本共産党井上けんじです

日本共産党南地区委員会 ☎ 371-9164 自宅 ☎ (F兼) 691-3323 (携帯) 090-7880-9442

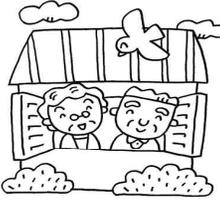
日本共産党京都市会議員団 ☎ 222-3728 FAX 211-2130

市会議員団ホームページ <http://cpgkyoto.jp/> E-mail info@cpgkyoto.jp

2020年8月23日



わかったようでよくわからない!?'感染者数'ニュース



連日のニュースで、「きょうは感染者数が何人」等と報道されています。感染された方々には、心よりお見舞い申し上げます。深刻な事態が続いていますが、全体がよく分からないとの声も寄せられています。何が問題なのか、感染者数を減らす為に何が必要なのか、「あなた」を例に、考えてみました。

1、もしあなたが、熱があつて心配なとき

↓ ※ コールセンターは「近所の医者にご相談を」と言うのが主な役割。井上議員が「あなたは誰ですか」と聞いても「それは個人情報なので言えません」!?. 実際は京都市が民間の会社に委託している。

2、かかりつけ医、または一般の医療機関にて、診察または電話相談

↓

3、その医師が感染の疑いありとの判断の場合、医師から京都市保健所へ連絡

↓

4、保健所が「帰国者接触者外来」と連絡をとり、予約、その市民に紹介。

↓ ※ この「外来」は、府内46カ所の病院で担当(固有名詞は秘匿)

5、検体を、「外来」から市衛生環境研究所または民間の検査機関等にて判定

↓ ※ 以下、市の言う数字は8/5現在。

6、判定結果が保健所へ、保健所から本人へ指示(自宅療養、入院等)

↓ ※ 本人に接触者等を聞いたうえで、その人たちにも検査実施。但しここで問題なのは、「接触者」の範囲。国も市も狭い範囲のみで、感染しているが自覚症状のない人などもっと幅広く面的な検査が必要。また共産党は、医師会など専門家のご意見もお聞きし、学校や福祉・介護施設等、人がたくさん集まる所では全員の検査もすべき等と、呼びかけています。検査対象者数も発表すべきと思いますが、府の一括発表で京都市独自の数字は発表されていません。

7、入院の場合、京都府入院医療コントロールセンターと連携、現在431床確保だが、今後も増床の方向。軽症の場合、ホテル活用も(これも府の管理・運営で府が手配、現在300床を確保とのこと。ホテルでは看護師などが対応)

※ 井上けんじ議員「検査対象者の範囲拡大はどうか、広く検査すべきだが、検査をまかなう体制がないのか？」

→ 市保健所課長「体制不足で検査できないのではない。要検査の人たちの検査はできている。但し、対象者を広げると、本当に検査が必要な人たちが遅れてしまう場合がある。なお、医師会では『唾液検査であれば、140の医療機関で検査は可能』と言われている」とのこと。

※ 要するに京都市は検査対象者を増やすという観点が弱いし、従ってその為の体制整備を急ぐ気持ちも不十分ということか。一方、京大病院などは、「府や市からの依頼があれば、ウチで一日千件の検査は協力できる」とのこと。国や市は、その気にさえなれば検査の体制・裏付けは可能。この検査を面的に広げることがカギ。

▼ 国の「Go To Travel」は大手の旅行業者やホテルが潤うだけ。そんなことより、中小も含め関連事業者への直接支援が必要。旅行呼びかけは感染拡大の危険性があり、まさにアベ内閣は迷走・混迷。



右から、こくた衆院議員、井上・森田市議、木村氏。

こくた恵二衆院議員らとともに 街頭から市政・国政報告

8月8日午後、九条七本松にて、街頭から市政・国政報告。こくた恵二衆院議員、井上・森田市議、山内府議、木村日本共産党南区後

援会長らが参加しました。井上市議の訴えの要旨を紹介します。 ※ 新型コロナウイルスの問題については二つの課題が

ある。①感染拡大防止に向け、検査の対象を、狭い範囲での「濃厚接触者」だけでなく、もっと面的に広げることが必要。②暮らして営業者を守る。国や市の事業者支援策はハードルが高

を、お聞かせ頂いて、皆さんの声を市政に反映させたい。よろしく。

